

## 病院管理栄養士の栄養相談スキルの評価方法の確立

Establishment of evaluation method of nutritional counseling technique by hospital managerial dietician

佐藤 祐子

Yuko Sato

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 人間生活科学専攻 博士後期課程

キーワード : 管理栄養士, 栄養相談スキル, 病院

Key words : Managerial Dietician, Nutritional counseling technique, Hospital

### 1. 研究目的

病院における管理栄養士の業務内容は主に給食管理, 栄養管理, 栄養相談 (栄養指導), チーム医療 (NST) への参画, 実習生受け入れ等がある。病院における栄養相談 (栄養指導) の内容は糖尿病, 肥満, 高血圧症, 腎臓病, 骨粗鬆症, 拒食症, 過食症, 貧血など多岐にわたり, 患者の食生活改善の大きな一助となっている。日本の糖尿病患者は 316 万人 (平成 26 年患者調査) となり, 糖尿病をはじめとする生活習慣病患者数が年々増加している。生活習慣病による入院患者や外来患者を対象に管理栄養士が栄養相談を実施している病院は数多くある。近年, 健康増進を目的とした「健康日本 21 (第二次)」が施行され, 生活習慣病予防を含めた一次予防の観点からも栄養相談の役割が期待される。

クライアントの食生活改善効果は管理栄養士の栄養相談スキルによって大きく左右される。栄養相談に関して, 病院に勤務する管理栄養士は, 学会や研修会における情報収集や交換はあるものの, 病院における栄養相談の実際とその内容を知り得る手段はない。同時に管理栄養士の栄養相談スキルを評価する方法は確立されていない。その評価が可能だとしても, 評価側に主観的評価と客観的評価が混在するため, 評価手法を確立し, 標準化させる必要がある。栄養相談スキルの評価方法を確立することで管理栄養士の栄養相談スキルを可視化することが可能であると考えられる。

本研究では, 管理栄養士自身のスキル, コンピテンシー, 自己効力感の向上を目指して, 病院の栄養相談において実用可能なスキルの評価方法の確立を検討することを目的とする。

### 2. 研究実施内容

(調査 1)

病院に勤める管理栄養士 9 名を対象に質的調査 (インタビュー調査) を実施した。対象者は性別や年齢は問わず, 栄養指導経験のある者とした。

実施時期は, 2016 年 7 月から 12 月である。この調査は大妻女子大学生命科学研究倫理委員会および東京医療保健大学ヒトに関する研究倫査委員会の承認を得て実施した。

(調査 2)

臨床現場で活躍できる管理栄養士を育成する目的で OSCE (客観的臨床能力試験: objective structured clinical examination) を取り入れている管理栄養士養成校が増えてきている。

OSCE に関係する文献を収集し, その中で「栄養相談に必要なスキルおよび知識」に関する評価項目を抽出した。

### 3. まとめと今後の課題

(調査 1)

インタビュー内容のデータをコード化し, さらにカテゴリ化した。特に「病院に勤務する管理栄養士に必要な知識とスキル」に関するキーワードを抽出し, 関係性を表した。その概念図を図 1 に示す。

病院の栄養相談において主に必要となるスキルは「献立を作成する力」, 「実践可能な内容を提案する力」, 「信頼関係を構築する力」, 知識においては「臨床的な知識」が必要であることがわかった。

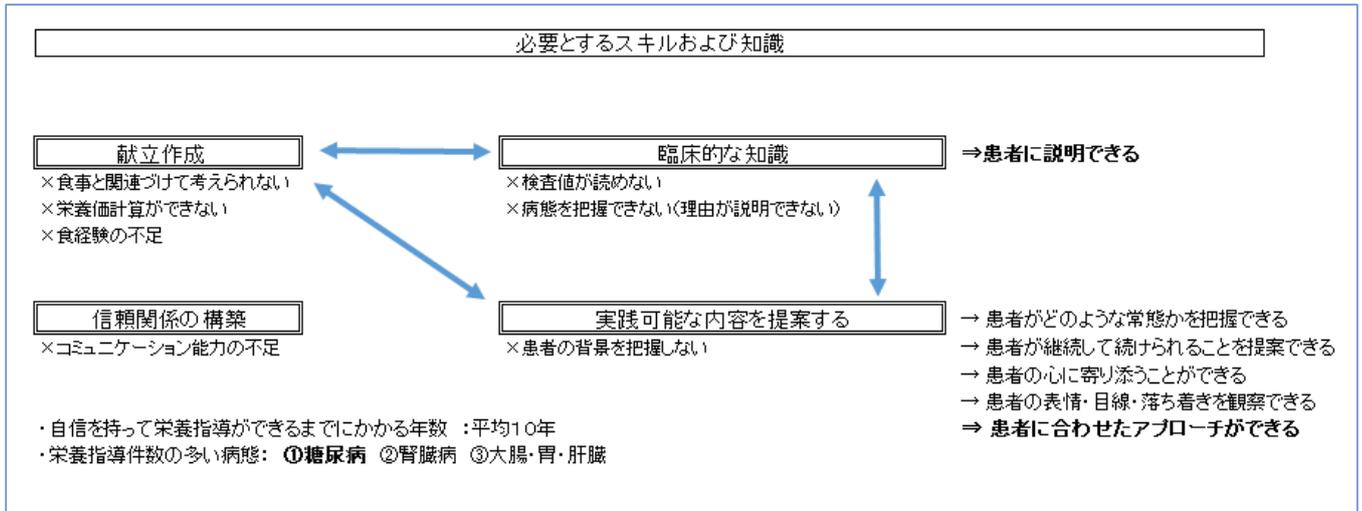


図 1. インタビュー調査結果「栄養相談において必要なスキルおよび知識」に関する概念図 (n=9)

表 1. インタビュー調査結果

「栄養相談において必要なスキルおよび知識」に関する具体的な項目(n=3)

スキル	n=3	プレゼンテーション力
	n=2	観察力
		傾聴
	n=1	献立作成(レシピ展開)
		最終的に患者を導く
		カウンセリング
コーチング		
知識	n=3	栄養(エネルギー)計算
		病態
	n=2	検査値
		薬学
		栄養学
		生化学(代謝)

インタビュー調査を実施した対象者の内 3 名に必要なスキルおよび知識を具体的な項目を提示してもらった。必要なスキルに関して、多くあげられた項目から「プレゼンテーション力 (n=3)」、「傾聴 (n=2)」、「観察力 (n=2)」であった。必要な知識に関しては「病態 (n=3)」、「検査値 (n=3)」、「薬学 (n=2)」、「栄養学 (n=2)」、「生化学 (n=2)」があげられた。この結果を表 1 に示す。

良い栄養相談の実施には、患者のペースにのまれない、さらには患者をひきつける「プレゼンテーション力」と患者の背景を読みとる「観察力」、患者の情報を聞き出す「傾聴」が必要不可欠であり、一つでも欠けると相談内容が不十分になることが予想される。

(調査 2)

OSCE に関する 10 文献より、栄養相談に関するスキルや知識に関する質問項目を抽出し、KJ 法によりグルーピングし、グループごとに要約をした。大きなグループとして抽出できたものは、それぞれ「アセスメント力」「栄養教育の実施力」、「資料読解力」、「課題抽出力」、「カウンセリング力」、「病態・検査値の知識」であった。

今回の調査において、病院管理栄養士の栄養相談に必要なスキルおよび知識について精査することができた。今後は調査 1、調査 2 で得られたデータを詳細に分析し、次に実施する質問票調査のための資料とする。その後、実際に病院管理栄養士を対象とした質問票調査を実施し、現場において必要な栄養相談のスキルや手法を明確にし、栄養相談の評価方法を考案する予定である。